

# すいさん山形

漁民と手をつなく広報誌

No. **371**

令和5年 / 7 月号

山形県漁業協同組合  
広報誌

# 龍神 進水

去る5月16日、「龍神」（さかた総合市場所属矢口進船頭、6.4トン）の進水式が執り行われ、地元漁業者や水産関係者、漁協職員等が駆け付け皆で門出を祝いました。

式典後、矢口船頭は「今までたくさんの苦労があったが、皆さんのご協力のおかげでようやくここまで来ることができた。本当にありがとうございました。」と参加した皆さんに心からの感謝を伝えました。「龍神」の航海安全と大漁満足を心よりご祈願いたします。



# 第58回 通常総代会開催



第58回通常総代会は、6月27日(火)午前10時より本所講堂において、総代79名(内19人が委任出席)の出席と多数のご来賓の方々、また各関係機関代表者のご臨席のもとに開催されました。

冒頭、本間昭志組合長が挨拶を行い、続いてご来賓の吉村美栄子山形県知事(村山朋也山形県庄内総合支庁長代読)、安川智之酒田市副市長、時田博機遊佐町長、笠原康弘農林中央金庫山形支店長からそれぞれご祝辞を頂戴しました。

次に、吹浦地区の土門拓也氏が議長に選出され、第1号議案令和4年度事業報告及び損失処理案の承認に関する件、第2号議案令和5年度事業計画の設定に関する件、第3号議案令和5年度における借入金の最高限度額に関する件、第4号議案賦課金の賦課及び徴収方法に関する件から第7号議案の役員を選任に関する件まで、7議案が審議され、いずれも可決承認されました。

また、通常総代会後に開催された、令和5年度臨時総会では、第1号議案定款・規約の一部改正について、第2号議案漁業生産力の発展に関する計画(共同漁業権)に関する件、第3号議案の漁業権の取得に関する件から第5号議案の漁業権遊漁規則の制定に関する件まで5議案が審議され、いずれも可決されました。最後に特別決議としてALPS処理水海洋放出の方針に対する特別決議(案)が上程され、審議の結果、満場一致で採択されました。

## 令和4年度の事業概況

令和4年度の本県漁業の状況については中型船凍いか釣漁業と定置網漁業にて廃業が続き、船凍いかの漁獲数量は5年前の3分の1以下となり、当漁協の経営に大きな影響を与えております。

基幹漁業である底曳網漁業に於いては5月に鮮いか、10月解禁からのズワイガニの漁獲は好調だったものの、11月のハタハタ漁が振るわず漁獲量は昨年より80トンほど減少し、他漁業種においても減少する結果となりました。令和3年度最低だった漁獲量をさらに182トン下回り、購買事業と製氷事業に大きな影響を与えました。

総水揚金額は計画の24億円を上回ったものの、経済各事業の取扱高に大きく影響、また、全漁連監査において、さかた総合市場、旧豊浦支所建物のアスベスト除去費用の引き当てを特別損失として計上するよう指摘された結果、事業損失として43百万円、経常損失についても12百万円となり当期損失金として82百万円の最終赤字を計上することになりました。

2年連続して経常利益を出せなかったことで、東日本信漁連への信用事業譲渡条件を満たすことが出来なくなり、令和8年度までに計画を整える事となりました。

この事を真摯に受け止め、役職員一同団結して収支構造の改善に取り組み、内部留保による財務基盤の強化に努めてまいりる所存であります。組合員皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

主な事業活動と成果については左記のとおりです。

## ① 信用事業

貯金業務については、計画目標を52億円とし、本年度も「みな貯金推進運動」等を展開しながら、個人貯金残高の維持・確保を図り、最終的に年度末残高は51億11百万円、平均残高では51億32百万円となり、計画比で98・3%となりました。

貸出業務については、計画目標を5億57百万円とし伸長融資に努めたところ、最終的な年度末残高は5億41百万円となり、計画対比97・1%という結果となりました。なお、貯貸率は10・6%となり、前年対比0・1%上回りました。

その結果、信用事業総利益は21百万円となり、前年度同水準であり、計画比5百万円の減少となりました。

## ② 共済事業

長期共済契約保有実績では「チヨコー」は53億16百万円、対前年度比91・5%、「くらし」は27億2百万円と対前年度比102・3%となりました。

短期共済では乗組員厚生共済「ノリコー」は、10億円の計画に対し7億34百万円と達成率73・4%、火災共済「カサイ」は、62億円の計画に対し50億37百万円と達成率81・2%となりました。

これは組合員の高齢化に伴う廃業や担い手の減少などといった影響や、補償内容の見直しといった契約変更により、契約取扱高が減少傾向とな

っています。

前記のことから、共済事業総利益は10百万円となり、前年度に対しては88・9%の実績率、計画に対しては75・2%の達成率となりました。

## ③ 購買事業

当組合の主要取扱品目であるA重油の供給数量は、生いか漁船への供給は増加したものの、中型いか釣船の供給減、沿岸漁船については寒波による出漁日数の減少などにより前年比96・4%、計画比57・7%の4036klとなっております。

軽油については、生いか船の供給増、重油から油種変更する漁船もあり、前年比131・5%、計画比172・7%の77klとなりました。

灯油については、企業向けは増加したものの、個人向け供給数量の減により、前年比93・6%、計画比79・0%の1,264klとなっております。また、潤滑油については中型いか釣船の供給減により、前年対比72・5%で推移しております。

これにより石油類全体での供給数量は前年比99・0%、計画比67・0%という結果となりました。

魚箱類については県外生いか船の供給は増加しましたが、底曳網漁業ではハタハタの不漁など各漁業種類の不漁による供給数量の減少と、漁業者の所得維持に向けたスカイタンクでの販売もあり、前年比101・2%、計画比70・8%の実績となっております。

ます。

一般資材類につきましては補助事業や制度資金の購買取扱があり、前年比115・0%、計画比130・0%の実績となりました。

その結果、購買事業総利益は1億56百万円となり前年比108・3%、計画比83・0%の達成率となりました。

## ④ 販売事業

県一漁協合併後初めて4,000トンを超え、前年度に続き、今年度の水揚数量も3,787トンと2期連続で過去最低を更新しました。

昨年極度の不漁となった小型いか釣漁業は95,000ケースを水揚げするものの、中型いか釣1隻と定置網2カ統の廃業が大きく影響する形となりました。定置網が主として漁獲するワラサ・イナダ、サケの回遊も昨年同様低調に推移、また、冷凍

いかの荷揚量も最低となった前年を更に40%下回る60,000ケースにとどまりました。一方で水揚金額においては、ウイゴコロナによる需要の回復と全国的な水揚量の減少から生鮮、冷凍とも単価上昇傾向が続き、高値安定を要因に前年対比3億94百万円増の24億91百万円を確保することができました。

買取販売においては、鮮魚は新漁向け出荷が年間通して継続できたことで仕入高、販売高ともに25百万円を超え、コロナ禍以前と比べても3倍近い取扱高となりました。冷凍い

かは前浜での水揚減少から一部外部仕入も行い37,700ケース、3億13百万円の販売高となり、次年度繰越は餌料用、ふるさと納税返礼品用を含め6,800ケース、56百万円となっております。

その他の取組として、県行政及び県卸売協会との連携による庄内浜産水産物の消費拡大キャンペーンでは、内陸部量販店において春と秋に旬の魚種を絞ってPR活動を行いました。また、活動は限定的なものとなりました。以上のことから、本年度の販売事業総利益は1億13百万円となりましたが、計画に対しては97・7%の達成率にとどまる結果となりました。

## ⑤ 製氷冷凍冷蔵事業

工場生産の合理化に努め、組合員に対する安定供給を優先し事業展開をいたしました。燃料調整費等の高騰による電気料金の値上げに伴い供給単価の見直しをいたしました。

小型いか釣漁業への供給については、夏季、冬季ともに県外船への供給が前年に比べ増加し、前年対比28%の供給数量となり、計画対比では93%の実績となりました。地元漁業及び定置網漁業への供給は、廃業した組合員の影響もあり前年度に比べ減少しました。

この結果、数量で前年対比106・6%の3万7千本、供給高では前年対

比109・1%の67百万円となりました。また、電気料金高騰等に伴う経費増の影響もあり、最終的に製氷冷凍事業総利益は18百万円となり、前年度に対し97・2%の実績率、計画に対し64・6%の達成率となりました。

### ⑥ 加工事業

学校給食事業では昨年度に続き「山形県水産物消費拡大緊急支援事業」の活用で、県内全域による学校給食へのスルメイカ製品等の供給をおこなったことにより、加工品販売高71百万円（前年度比108%）、原料販売の冷凍品供給高52百万円（前年度対比146%）となりました。

「県漁協直営店 庄内海丸」は新たな展開として鮮事業の販売に手掛け売上を伸ばし、自営販売販売高は41百万円（前年度比114%）と過去最高の売上を作ることが出来ました。

これらにより加工事業収益は1億68百万円となり、前年度対比26百万円の増（118・6%）となっております。加工事業費用については、前浜の加工向け魚種の漁獲量減少による魚価高の影響や製造経費が大きく嵩み、加工事業直接費は1億53百万円（前年度比125%）と厳しい状況でありました。

その結果、加工事業総利益は1500万円の実績となり、前年度対比▲4百万円、計画に対して8百万円の増となりました。

本年度も水産庁の経営基盤強化支

援事業を活用し、コンサルタントの経営分析・調査を行い、首都圏・隣県の販路拡大を図り取引先を増やすことができたことにより売上増加を図ります。

3年ぶりの現地開催となった国産水産物流通センター主催のFish hooグランプリに「庄内浜産プライド鮎」で出店し、グランプリを獲得することができ、今後も商品開発に積極的に取組んで参ります。

「県漁協直営店 庄内海丸」はオープンより7年が経過いたしました。新たな事業展開を行い、引き続き庄内浜のPRを行うとともに、地産地消・魚食普及に努めて参ります。

### ⑦ 指導事業

県・沿岸市町の協力を得て、各種苗の放流を実施し、資源の増殖及び繁殖保護に努めました（放流尾数アワビ176,300個、ヒラメ130,000尾、トラフグ19,000尾）。また、放流に伴って放流地点付近を禁漁区又は保護区域と設定することにより、放流稚魚の保護を図りました。特にアワビについては、稚魚の放流通期と適正な放流場所の確保に努めるよう浅海漁業連合会を通じて放流技術の情報共有を行いました。

「浜の活力再生広域プラン」「浜の活力再生プラン」に継続的に取り組みました。

漁業経営の改善に意欲的に取り組

む中核的漁業者を支援するため、県市町と連携し、「浜の担い手漁船リース緊急事業」を積極的に推進することによって、新船建造代船導入・機関換装等、浜の漁業経営構造の改革に取り組んでおります。

浜の担い手漁船リース事業及び水産業成長産業化沿岸地域創出事業のリース事業となることを目的として設立した一般社団法人山形県漁業リース協会を運営し、リース事業において漁協事業を有効に利用する事業運営方法により実施しました。

県と沿岸市町が令和3年度から新たに予算措置した「水産業成長産業化支援事業」を活用し、新たに漁業に就業する漁業者の中古漁船の取得を支援するとともに、既存の漁業者についても水産業の成長産業化に資する漁労資機材の取得を支援しました。

洋上風力発電事業の検討について、「再エネ海域利用法」に基づき有望な区域に整理されている遊佐沖については、先行利用者である地元漁業者の意に沿うことを第一義とし、国の施策の方向性を最大限に注視しながら、国に対して丁寧な説明と慎重な協議を求めています。また、国による適地確認のための調査事業が進みつつある酒田沖については、県に対して決して前のめりにならず、誤解のない丁寧な説明を求めています。併せて、当該海域を代々利用している地元漁業者が、洋上風力発電に対して正確に理解するとともに、将来を見据えた判断ができるよう情報提供に努めました。

## 理事会情報

令和5年度 第2回 理事会議案  
開催日…令和5年6月6日(火)  
場所…本所 第1会議室

- 【協議事項】
- 1 令和4年度 全漁連監査の概要及び結果について
  - 2 令和4年度 期末監事監査の報告について
  - 3 第58事業年度通常総代会及び令和5年度臨時総会の提出議案について
  - 4 令和4年度 貸借対照表・損益計算書及び注記表並びに業務報告書について
  - 5 令和5年度 事業計画（案）について
  - 6 令和5年度 資金運用計画（案）について
  - 7 令和5年度 栽培漁業地域展開促進事業実施計画（案）について
  - 8 販売売掛金と信極度額の増額について
  - 9 産直「庄内海丸」の桜田店出店について
- 【報告事項】
- 1 役員候補者推薦会議の結果について
  - 2 令和4年度 固定資産減損損失の兆候について
  - 3 令和4年度 自己資本比率の状況について
  - 4 令和4年度 税効果会計の適用について
  - 5 貸付金利率の改定について
  - 6 組合員の加入・脱退について
  - 7 その他

- 令和5年度 第3回 理事会議案  
開催日…令和5年6月27日(火)  
場所…本所 第3会議室
- 【協議事項】
- 1 代表理事組合長及び専務理事の選任について
  - 2 関係団体運営員会及び各種内部委員会等の委員選任について

# 水産関係団体 令和4年度 事業の概要

## 日本漁船保険組合 山形県支所

令和4年度事業概要は漁船保険（普通損害保険及び満期保険）の引受では、加入隻数488隻（前年同期比93.7%、33隻減）、保険金額は5,176,830千円（同93.0%、390,130千円減）となりました。漁業者の高齢化による廃業や漁船の老朽化に起因する在籍漁船の減少に伴い、基本契約となる漁船保険をはじめと

して、船主責任保険等についても前年度と比べ減少しています。

なお、保険金支払状況については、漁船保険及びその他の保険についても保険金支払件数、金額ともに前年度並みの実績となりました。

各事業別の実績は下表のとおりです。

表1 漁船保険地区別加入実績及び支払実績

支所名	在籍漁船	加入漁船	保険金額	純保険料	事故件数	支払保険金	損害率	事故率
念珠関	135隻	123隻	893,760千円	13,993,800円	14件	3,048,507円	21.8%	11.4%
温海	40	38	168,550	2,620,065	5	2,946,670	112.5	13.2
豊浦	64	57	429,620	6,441,739	11	7,156,594	111.1	19.3
由良	68	54	368,560	7,210,768	11	5,303,192	73.5	20.4
加茂	44	37	160,200	3,588,614	5	957,618	26.7	13.5
さかた総合	91	80	729,510	14,634,629	26	16,932,071	115.7	32.5
吹浦	40	32	130,050	2,971,313	4	522,545	17.6	12.5
飛島	81	63	272,580	5,201,067	7	2,547,058	49.0	11.1
その他	6	4	2,024,000	5,781,400	0	0	0.0	0.0
合計	569	488	5,176,830	62,443,395	83	39,414,255	63.1%	17.0%
前年同期	604	521	5,566,960	62,916,368	87	35,341,925	93.4%	19.4%
前年同期比(%)	94.2%	93.7%	93.0%	99.2%	95.4%	111.5%	67.5%	87.4%

\*在籍漁船には山形県漁業協同組合所有船「第18漁連丸」を含む。

\*在籍漁船隻数は、令和5年3月31日現在。加入漁船数は、令和4年4月1日～令和5年3月31日までの累計。

表2 漁船船主責任保険等加入実績と保険金支払状況

種類	本年度契約金額		支払保険金		種類	本年度契約金額		支払保険金		
	隻数	金額(千円)	件数	金額(円)		隻数	金額(千円)	件数	金額(円)	
漁船船主責任保険	基本損害	478	356,300,000	7	11,262,521	漁船乗組船主保険	361	313,000	0	0
	乗客損害	87	34,450,000	0	0	漁船積荷保険	0	0	0	0
	人命損害	63	181,000	0	0	プレジャーボート責任保険	194	25,770,000	4	191,472

## 令和4年度 無事故漁船所有者等表彰



### 水産庁長官表彰

豊浦支所 額神丸 有限会社 仁三郎

### 日本漁船保険組合会長表彰

念珠関総括支所 喜久丸 佐藤 元治  
 念珠関総括支所 龍鵬丸 剣持 浩  
 念珠関総括支所 福德丸 佐藤 栄松  
 豊浦支所 大黒丸 本間 雅夫  
 さかた総合市場 SUNRISE 渡邊 勇悦

# 全国合同漁業共済組合 山形県事務所

本県の令和四年度の水揚高は24億91百万円となり、前年度対比で3億94百万円の増加となりました。主要因としては沿岸漁業が総じて水揚不振となり、特に底曳網漁業、定置網漁業及び延縄漁業が前年を下回りました。また、恒常的な問題となっている漁業者の高齢化、魚価安と燃油価格の高止まり状況、海洋環境の変化・担い手不足等も相まって漁業経営を一段と厳しくしております。

このような漁業環境にあつて、本年は「令和の備えもぎよさいとぶらす」をスローガンに掲げた普及推進全国運動の最終年となり、併せて「資源管理・収入安定対策事業」を説明しながら未加入船を中心に推進運動を展開しました。

その結果、鶴岡市の小型合併漁業で1件の新規加入、底曳網漁業で7件の契約割合引き上げがありました。前年度同期比での漁獲共済の加入件数は183件と12件減少となり、共済金額においては前年を大きく下回ることとなりました。

長期にわたる漁業環境、経営環境の悪化が「ぎよさいと積立ぶらす」にその役割と期待を更に大きくするものと思われず。

ここにあらためまして、漁業者各位のご理解とご協力に感謝を申し上げます。

**ぎよさい加入で  
安心経営**



つなぐちゃん

## (令和4年度 20都府県事務所別 実績一覧表)

事務所別引受実績 (単位:百万円)

事務所	前年		
	共済金額	共済金額	増減
秋田県	811	838	△27
※ 山形県	1,468	1,592	△124
福島県	4,664	4,624	40
茨城県	18,858	18,803	55
東京都・本所	5,145	5,319	△174
神奈川県	4,177	4,341	△164
静岡県	12,506	12,943	△437
新潟県	5,862	5,808	54
石川県	11,023	10,945	78
福井県	5,789	5,787	2
愛知県	6,131	6,622	△491
京都府	3,611	3,481	130
大阪・和歌山	8,103	9,132	△1,029
岡山県	2,394	2,672	△278
鳥取県	10,348	10,373	△25
島根県	11,587	11,424	163
山口県	6,576	6,541	35
高知県	23,541	24,117	△576
大分県	14,601	17,632	△3,031
沖縄県	6,894	7,223	△329
合計	164,089	170,217	△6,128

事務所別支払実績 (単位:百万円)

事務所	前年		
	共済金	共済金	増減
秋田県	55	63	△8
※ 山形県	47	90	△43
福島県	273	162	111
茨城県	569	292	277
東京都・本所	27	51	△24
神奈川県	169	203	△34
静岡県	624	603	21
新潟県	224	442	△218
新潟県	212	630	△418
福井県	196	298	△102
愛知県	319	403	△84
京都府	43	112	△69
大阪・和歌山	116	140	△24
岡山県	269	524	△255
鳥取県	220	413	△193
島根県	318	893	△575
山口県	230	274	△44
高知県	161	192	△31
大分県	359	67	292
沖縄県	380	345	35
合計	4,811	6,197	△1,386

積立ぶらす (単位:千円)

事務所	前年	
	漁業者積立額	払戻補填金
秋田県	48,740	79,640
※ 山形県	58,470	148,320
福島県	209,590	592,960
茨城県	598,760	1,651,720
東京都・本所	379,950	424,440
神奈川県	343,210	995,960
静岡県	931,600	2,650,120
新潟県	427,320	1,048,000
新潟県	734,260	1,643,120
福井県	306,360	802,440
愛知県	226,710	834,320
京都府	197,550	174,480
大阪・和歌山	326,150	425,640
岡山県	108,290	236,680
鳥取県	425,120	810,290
島根県	566,910	1,259,920
山口県	340,530	723,580
高知県	847,570	1,267,010
大分県	539,650	497,360
沖縄県	187,390	341,480
合計	7,804,130	16,607,480

**全国合同漁業共済組合 山形県漁業共済事業運営委員**

令和5年6月20日開催の第二回運営委員会において補欠選任が行われ、次のとおり新しく就任・選任されました。

〈運営委員任期〉(補欠選任)  
令和5年6月20日  
令和7年6月の通常総代会終了時まで  
〈運営委員任期〉  
令和7年6月の通常総代会終了時まで

運営委員	佐藤 昭(新)	西村 盛(重)	榎本 明(重)	田代 善幸(重)	鈴木 正(重)	飯塚 厚司(重)	伊原 光臣(重)	本間 昭志(重)
〈辞任〉 運営委員	和田 均(辞任)							

**令和4年度 漁業共済優績者表彰**

☆漁済連会長賞  
《5年間無事故者》  
昭豊丸  
本間 正 徳殿(念珠関)

# JF共済連東北事業本部 山形支店

JF共済は2022年度、「浜の安心を未来へ」ひろげよう共済の輪。JF共済3か年計画（2020年度～2022年度）の最終年度として、浜のあんしんサポート運動を主体とした「組合員・地域住民の暮らしの保障に万全を期す」取り組みを実践しました。

本県JF共済推進本部は「ひろげよう共済の輪2022やまがたチョココーキャンペーン！」を展開し、JF共済の普及拡大に向けた推進活動や会議・研修会の更なる充実を図り、推進体制の強化に取り組みました。また、東北6県合同による「共済の輪」拡大ホームランキャンペーンや山形県・秋田県合同の「浜のあんしんサポート運動特別キャンペーン！」を実施し、事業量目標の早期達成に向けたキャンペーンを展開しました。

その結果、JF共済の基幹種目である生命共済「チョココー」建物共済「くらし」は目標達成には至りませんでした。一定の成果を挙げることが出来ました。特に「チョココー」では終身共済・介護共済契約が伸長し、「くらし」は近年の自然災害の大型化もあって建物の補償点検活動を実施したことにより、契約保有増となりました。

また、2021年度よりスタートした「浜のあんしんサポート運動（浜サポ）」は2年度目を迎え、世帯台帳整備・契約内容確認活動等を行い、ご加入されている方々へのニーズに沿った必要保障（補償）のご提案をさせていただきました。ご協力いただきました組合員・地域住民の皆様には厚く御礼申し上げますとともに、2023年度からの新3か年運動「浜の笑顔共済とともに」においても積極的な運動展開をして参りたいと思っておりますので、引き続きのご理解とご協力をお願い致します。

## ☆JF共済 2022年度加入状況

(単位：件、万円)

共済種類	実績		保有			
	件数	共済金額	件数	共済金額		
長期共済	チョココー	新規	123	81,650	884	556,340
		純新規		56,500		
	くらし	32	33,140	238	282,840	
	年金	新規	4	13	333	2,197
増額		4	12			
短期	ノリコー	218	75,600	—	—	
	カサイ	334	531,809	—	—	

生活総合共済（くらし）		
満期	11件	860万円
事故	12	247
計	23	1,107


漁業者老齢福祉共済（ねんきん）		
年金	200件	2,976万円
死亡	0	0
計	200	2,976

## ☆2022年度共済金支払状況

普通厚生共済（チョココー）		
満期	102件	18,530万円
死亡	1	220
入院・通院他	141	810
計	244	19,560

乗組員厚生共済（ノリコー）		火災共済（カサイ）	
死亡	0件 0万円	1件	433万円
入院他	0 0	団体信用厚生共済（ダンシン）	
計	0 0	0件	0万円

**「JF共済3か年計画」  
運動スローガン  
(2023年度～2025年度)**



「浜の笑顔を共済とともに」

がんばろう漁業 浜の応援団

「組合員のため」が「組合のため」に

浜のあんしんをサポート JF共済

### 推進本部長運営委員について

本年六月末日で任期満了となる運営委員について、令和五年六月二十七日の山形県漁業協同組合の理事会において、次の方々が選任、承認されましたのでご紹介させていただきます。また、山形県JF共済推進本部設置規程の変更に伴い、「推進本部長」を「推進本部会長」に変更いたしましたので併せてお知らせいたします。

**山形県JF共済推進本部運営委員**

推進本部会長	本間 昭志
運営委員	西村 盛
運営委員	飯塚 厚司
運営委員	鈴木 徳正
運営委員	佐藤 昭 (新任)
運営委員	伊原 光臣
運営委員	榎本 敏明
運営委員	田代 善幸
事務局長	佐々木裕之

# 全国漁業信用基金協会 山形支所

## (1) 会員と出資金

会員数は新規加入0名、脱退1名により本年度末会員数は55名となりました。また、出資金は口数の増加はなく、脱退会員に対する払戻により500千円減少し、本年度末出資金は659,100千円となりました。

## (2) 保証業務

年間保証計画額90,000千円（漁業近代化資金：75,000千円、その他一般資金：15,000千円）を目標に保証推進を行いました。年間保証引受額は14件21,110千円となり、その結果、本年度末保証残高は84件402,868千円となりました。前年度末対比では、件数では1件、保証残高では55,364千円減少しております。

なお、資金種類別の保証状況は下表のとおりであります。

## (3) 代位弁済と求償権

代位弁済は発生いたしませんでした。一方、求償権の回収については、求償債務者等の高齢化等により厳しい状況にありましたが、回収計画5,447千円に対し8,986千円の回収実績となりました。その結果、本年度末求償権残高は前年度より3件8,986千円減少し、111件1,073,970千円となりました。

なお、資金種類別の回収状況は下表のとおりであります。

## (4) 役職員の異動

退任（令和5年6月30日） 担当理事 加賀山 祐 担当監事 佐藤 龍一  
 就任（令和5年7月1日） 執行役員 芝田 秀樹

## (5) 運営委員（任期：令和5年7月1日～令和8年6月30日）

運営委員 加賀山 祐 運営委員 高橋 和博 運営委員 久保賢太郎 運営委員 佐藤 龍一  
 運営委員 館内ひろみ 運営委員 村上 浩 運営委員 伊原 光臣 運営委員 田代 善幸  
 運営委員 佐藤 昭 運営委員 飯塚 厚司 運営委員 芝田 秀樹

表1 債務保証と償還状況

（金額単位：千円）

区 分	前年度末保証残高		保証引受額		償 還 額		代位弁済額		本年度末保証残高		
	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	
漁業近代化資金	61	416,343	7	15,040	7	61,397	-	-	61	369,986	
沿岸漁業改善資金	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
一 般 資 金	金融公庫資金	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	一般緊急融資資金	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	借替緊急融資資金	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	その他一般資金	24	41,889	7	6,070	8	15,077	-	-	23	32,882
	小 計	24	41,889	7	6,070	8	15,077	-	-	23	32,882
計	85	458,232	14	21,110	15	76,474	-	-	84	402,868	

表2 求償権回収状況

（金額単位：千円）

区 分	前年度末求償権残高		代位弁済額		求償権回収額		求償権償却額		本年度末求償権残高	
	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額
漁業近代化資金	11	129,395	-	-	-	352	-	-	11	129,043
沿岸漁業改善資金	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
一 般 資 金	金融公庫資金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	一般緊急融資資金	21	59,168	-	-	-	363	-	21	58,805
	借替緊急融資資金	28	385,789	-	-	2	6,749	-	26	379,040
	その他一般資金	54	508,604	-	-	1	1,522	-	53	507,082
	小 計	103	953,561	-	-	3	8,634	-	-	100
計	114	1,082,956	-	-	3	8,986	-	-	111	1,073,970



# 令和4年度 水揚表彰



## 山形県漁協水揚優秀船表彰

漁業種類	船名	船主名	所属支所等	
船凍県外 中型船	50t以上	第86若潮丸	石垣漁業(株) 根室漁協	
		第85興福丸	八田漁業(株) 小樽漁協	
底曳網 か	15~20t	第28廣徳丸	池田亀五郎 さかた総合市場	
		10~15t	第21末廣丸	(有)末廣水産 念珠閣総括支所
			萬龍丸	飛塚美和 念珠閣総括支所
	第5平安丸		五十嵐安哉 念珠閣総括支所	
	5~10t	大洋丸	佐藤洋生 念珠閣総括支所	
		恵徳丸	佐藤利光 念珠閣総括支所	
		昭栄丸	佐藤富士喜 念珠閣総括支所	
	5t未満	第2漁吉丸	阿部清浩 さかた総合市場	
		善龍丸	田代善幸 さかた総合市場	
	はえ縄・ 一本釣 刺網ほか	3t以上	第8海運丸	佐藤良太 念珠閣総括支所
			海成丸	本間金弥 念珠閣総括支所
		1~3t	千修丸	本間和憲 念珠閣総括支所(温海)
海皇丸			本間健太郎 念珠閣総括支所	
龍鵬丸			釘持浩 念珠閣総括支所	
海生丸			五十嵐健生 由良総括支所	
定置網	第18仁豊丸	(有)仁三郎 由良総括支所		
採介藻 ほか	1t未満	幸進丸	榊原英樹 由良総括支所	
		白山丸	榊原昭夫 由良総括支所	
鮮いか県内船	10~20t未満	第21清栄丸	大場誠市 由良総括支所	
鮮いか 県外船	30t未満	輝丸	野呂秀樹 えさん漁協	
		第37大輝丸	蛭子美津夫 大間漁協	

## 水揚優秀船漁撈長表彰

表彰基準	表彰者名	船名
県外船	本間 健	第86若潮丸
	齋藤 茂	第85興福丸

## 酒田市水揚優秀船表彰

区分	漁業種類	船名	船主名	所属支所等
県外	いか釣	50t以上	第86若潮丸	石垣漁業(株) 根室漁協
		30t未満	輝丸	野呂秀樹 えさん漁協
県内	底曳網	5t以上	第28廣徳丸	池田亀五郎 さかた総合市場
		5t未満	福傳丸	阿部昌樹 さかた総合市場
	いか釣	5~30t	第18陸丸	池田敏行 さかた総合市場
		5t未満	第21大幸丸	讃岐隆 さかた総合市場
	第28宝運丸		進藤優一 さかた総合市場(飛鳥)	
	地先	3~5t	第12善宝丸	佐藤喜代一 さかた総合市場
			第8双葉丸	本間勤 さかた総合市場(飛鳥)
		3t未満	善昭丸	佐藤清次 さかた総合市場
			海幸丸	鈴木芳夫 さかた総合市場(飛鳥)
	磯見		第3珠喜丸	進藤一喜 さかた総合市場(飛鳥)

## 鶴岡市水揚優秀船表彰

漁業種類	船名	船主名	所属支所等
底曳網	10t以上	第21末廣丸	(有)末廣水産 念珠閣総括支所
		萬龍丸	飛塚美和 念珠閣総括支所
		第5平安丸	五十嵐安哉 念珠閣総括支所
	5~10t	清徳丸	佐藤清紀 念珠閣総括支所
		第2千祥丸	佐藤栄一 由良総括支所
沿岸	3t以上	第8海運丸	佐藤良太 念珠閣総括支所
		海成丸	本間金弥 念珠閣総括支所
	3t未満	千修丸	本間和憲 念珠閣総括支所(温海)
定置網		第18仁豊丸	(有)仁三郎 由良総括支所
		幸進丸	榊原英樹 由良総括支所
磯見	1t未満	白山丸	榊原昭夫 由良総括支所
		第21清栄丸	大場誠市 由良総括支所
いか市内船	10~20t未満	第21清栄丸	大場誠市 由良総括支所

## 今期のクロマグロ漁について

今年も、庄内浜沖ではクロマグロ漁が好調となりました。

5月19日を皮切りに180kgを超える大型マグロが多数水揚げされましたが、今年も20kg台から50kg台が多く見受けられています。1日だけで6.5トン水揚げされる日もあり、山形県における大型魚の漁獲は6月9日をもって終了しました。

クロマグロは国が漁獲量の上限を設定し、管理している水産資源の一つにあたります。漁業者の皆様におかれましては、漁獲報告の義務がありますので、設定された漁獲枠を超えないよう、また安全操業の観点においても操業秩序の遵守を念頭におきながら、常に最新の情報に気を配り、安全操業を心がけましょう。次年度も大漁することを祈願いたします。

指導課 佐藤 悠太郎



鼠ヶ関

# 令和5年度山形県漁業者燃油高騰対策特別支援事業等について

原油価格・物価高騰等に対して、山形県では以下の事業で漁業者の皆さんを支援します。

**申請  
不要**

下記事業については、県漁協で燃油か魚箱等の購入数量を確認しますので、漁業者本人からの申し出は必要ありません。

## 漁業者燃油高騰対策特別支援事業

漁業者が購入した漁業用燃油について、漁業経営セーフティネット構築事業による補填額のうち、漁業者負担分について支援を行います。

### 補助対象期間

令和5年度第1四半期～令和5年度第3四半期のうち、セーフティネット発動期間（令和5年4月～令和5年12月）

## 出荷資材高騰対策特別支援

県漁協が販売する魚箱、氷について、値上がり前の価格と購入時点の価格との差額を支援します。昨年の事業から、新たに氷が対象となりました。

### 補助対象期間

令和5年4月～令和6年2月に購入した以下の資材についてそれぞれの値上がり前の価格との差額分について支援を行います。  
魚箱（発泡スチロール製、木製）：令和3年10月31日時点の価格との差額  
氷：令和4年12月31日時点の価格との差額

**申請  
必要**

下記事業については、漁業者本人から申し出がないと、把握できませんので、該当する場合は、下記記載の提出書類を準備し県漁協各支所に御相談ください。

## 漁業用資材高騰対策特別支援

漁業者が購入した漁業用資材について、令和3年1月時点からの価格上昇分について支援を行います。

### 補助内容

令和3年1月1日時点の価格と比べて、購入時点の価格が1割以上上昇した下記漁業用資材について、その上昇分を支援  
・エンジンオイル、漁網、ロープ、テグス

### 補助対象期間

令和5年4月から令和6年2月購入分（漁協購買課以外からの購入も含みます）

### 提出書類

販売店における令和3年1月1日時点の価格表、領収書

（水産振興課：主査 早坂 瞬）



去る、6月29日(木)から7月18日(火)までの20日間、道の駅「あつみ」しゃりんにおいて、庄内浜直送の鮮魚等を販売する魚屋「さがなあや」を期間限定でオープンしました。

この取組みは、道の駅を訪れる観光客や地域の皆様に、鼠ヶ関の海と庄内浜直送の新鮮な魚介を存分に味わっていただくとともに、「海と魚の鼠ヶ関」の知名度向上のため、道の駅あつみを運営する(株)クアポリス温海が主体となり、テナントである鼠ヶ関水産加工生産組合の販売ブースで行いました。また、令和9年4月には道の駅あつみの移転開業を予定しており、新しい道の駅での水産物販売に繋がられるよう取組んでいるものです。

販売した商品は、庄内浜直送の「鮮魚」や、刺身・干物・総菜等の「水産加工品」であり、特に期間限定の目玉商品として、庄内浜の旬の魚介が日替わりで味わえる「にぎり寿司セット（紅えび、のどぐろ、わらさ、まぐろなど）」は、地元客から観光客まで、幅広い年齢層の多くの方々からご利用をいただき、連日完売の盛況ぶりでした。

次回開催は、9月7日(木)から9月26日(火)までの20日間を予定しています。実施期間中は、販売する魚介類をしゃりんホームページで確認できます。お近くにお越しの際は是非ともお立ち寄りいただけると幸いです。ご来店を心よりお待ちしております。

鶴岡市温海庁舎産業建設課 主事 伊藤 愛斗

# ～酒と肴と鼠ヶ関～ イカ・マグロまつり2023開催！！



6月17日土曜日の念珠関総括支所の市場は、人で埋め尽くされる大変な賑わいとなりました。それもそのはず、この日はあつみ観光協会鼠ヶ関支部主催の～酒と肴と鼠ヶ関～イカ・マグロまつり2023が開催されたのでした。

アフターコロナにおいて久々に行われた大イベントの目玉は鼠ヶ関港で水揚げされたマグロの解体ショーです。念珠関総括支所の阿部支所長や由良水産加工場の倉田工場長代理が参戦し、さばきたてのおいしいマグロがふるまわれました。また、屋台コーナーではイカやマグロをはじめとする旬の地魚を使った出店、それらを食しながら楽しむ地酒飲み放題コーナー、その場外ではするめをラケットにしたおもしろ卓球大会と、どこもかしこもワクワクで笑顔があふれる大イベントとなりました。

今が旬のイカやマグロが浜の活気に一役買った、すばらしい一日となりました。



## サクラマス官能試験に行ってきました！

6月6日(火)おいしい魚加工支援ラボにおいて「サクラマス官能評価試験」が行われました。これは、県の魚であるサクラマスを広く知ってもらいたいと、水産研究所が主催した試みで、水産関係者や一般の方が20名程、そのうち県漁協からは3名出席しました。

官能試験は、参加者になにも情報を明かさず、AとBに分かれた一口大の焼サクラマスを食してもらい、項目ごとに評価してもらうというもので、参加者は皆真剣な表情でにおいや触感を確かめ評価を行っていました。

試験終了後に実は由良沖と酒田市最上川でそれぞれ漁獲されたサクラマスであったと種明かしされると参加者はみな驚きを隠せない様子で、海のほうがおいしかった、川がよかった、いやどちらもおいしかった等口々に感想を言い合っていました。

また、研修会終了後には(公財)山形県水産振興協会の余語滋専門生産技術指導員よりサクラマスに関するセミナーが行われ、サクラマスとヤマメについて、海水魚や淡水魚の塩分の浸透作用の違い等、様々な角度から講和が行われ、「スマルトとは何ですか?」「サクラマスとヤマメの卵に違いはあるのか」などセミナーが終わった後もたくさんの質問が飛び交っていました。

この評価試験から、消費者がどういった特徴をおいしいと感じているのか、集計から明らかにしていくとともに、今後は水産物の味の特徴を可視化することでPRに繋げていくなど発展的な計画があるそうです。今後の水産研究所の研究成果に期待です。



余語指導員のセミナーの様子



全て値上げの  
この時期に...



# 漁協の灯油を 値下げします!

**1** 令和5年9月1日から  
令和5年9月30日まで

期間中にご購入  
いただいたお客様は

何  
度  
でも  
期間  
内

## 3円引

※一部事業所を除く

9月に①と  
②の併用で  
6円引!



## さらに!!

**2** 令和5年9月1日から  
令和6年2月29日まで

期間中ホームタンクご利用の  
新規お客様をご紹介いただければ  
お客様、紹介者様ともに

## 3円券

有効期限: 令和6年2月29日まで  
(1枚につき1回)

### 進呈いたします!

安〜い!!



電気料も値上がり、家計が厳しいこの時期に。これからやって来る、冬の寒さに備え、

## 是非、漁協の灯油をご利用ください!!

## 漁業監視員研修会 開催

これから本格化する夏の行楽シーズン、例年密漁が多発することから、県と漁協から委嘱されている漁業監視員及び漁協職員を対象に、7月4日に漁協本所と由良コミセンで、11日に念珠関総括支所で、漁業監視についての研修会を開催し、40名程が参加しました。漁業関係法令等を学習し、監視業務のポイントや監視員のできること・できないことについて理解を深めました。また密漁の現状について情報を共有し、意見交換を行いました。

### <監視業務のポイント>

- ☞ 挨拶から始めよう!
- ☞ 漁業監視であることの説明
- ☞ 分かりやすく丁寧な声掛け
- ☞ 感情的にならないこと!
- ☞ 暴力・脅迫はダメ! 絶対!
- ☞ 漁業制度の内容を理解
- ☞ 安全第一!



ストップ・ザ・密漁



【庄内総合支庁水産振興課 漁業調整担当】

# JF共済全国推進・表彰大会



## JFやまがた『共水連会長表彰(総合の部)』受賞!!

7月12日、東京都千代田区の帝国ホテル東京で「2023年度 J F 共済全国推進表彰大会」が開催されました。

本大会は、2022年度ならびに前3か年計画(2020~2022年度)において、J F 共済の加入推進に尽くした J F の成果に対して他の模範として表彰することを目的に開催されているものです。

今年度、J F やまがたが「共水連会長表彰(総合の部)」を受賞。大会には佐藤信用共済課長よりご出席いただきました。

大会当日は表彰式その他、歌手の鳥羽一郎さん、J F 共済イメージキャラクターの瀬口有希さん、川野夏美さん、竜徹日記による歌謡ショーも行われ6年ぶりの開催となる大会に華を添えました。

## 酒保の海だより

酒田海上保安部から皆様のお役に立つ情報第八弾!!  
皆さまより「AISって何だあ〜?」・・・という質問が多数ございましたので簡単にご説明

### AIS(エーアイエス:船舶自動識別装置)

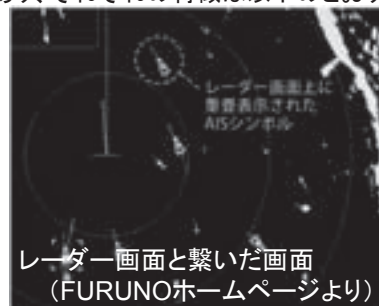
AISとは、船舶の船名、位置、針路、速力等の運航に関する情報を船舶局相互間又は船舶局と海岸局との間において送受信する機能を有するシステムで、AタイプとBタイプの2種類があり、それぞれの特徴は以下のとおりです

#### Aタイプ(大型船用)

- ・装置が大型で高価(150万円ほど)
- ・動静情報と航海情報を発信
- ・通信間隔2~10秒(ほぼリアルタイムに表示可)
- ・通信範囲は数十キロと広い(12.5W出力)
- ・無線局の免許が必要

#### Bタイプ(漁船・プレジャー用) 簡易型とも呼ばれています

- ・装置が小型(弁当箱位)で安価(約6万円から)
- ・動静情報のみを発信
- ・通信間隔30秒~3分とリアルタイム表示に欠ける
- ・通信範囲は数キロと狭い(2W出力)
- ・簡単な手続きで運用可能



Bタイプはリアルタイム性に欠けますが網引きや底曳きなど船速が遅く、操船不自由な時に大型船に早く気付いてもらう、海中転落や体調不良、ケガなどで操船不能になった場合に自船位置を見つけてもらうという手段として有効です

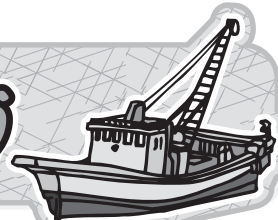


海の事件・事故は電話118番

酒田海上保安部



# 何でも魚ッティング



## 庄内夏の風物詩

私にとっての夏の風物詩といえば、ビールとだだちゃ豆ですが、お盆の帰省時に楽しんでいたのが、イガイの味噌汁です。

イガイとは、日本各地の沿岸部に分布している二枚貝であり、庄内では地域によって相当の資源量があります。庄内ではイガイのことを“イゲ”と呼んでおり、7～8月の“お盆の時期に食べる貝”として、親しまれています。このため、イワガキと同じように、庄内の夏には欠かせない食材です。

しかし、残念ながら、県内の内陸地域では、イガイを食べる機会が少なく、見た目が似ているムラサキイガイ（通称、ムール貝）と混同している方もいると聞きます。イガイは、ムラサキイガイに引けをとらない美味しい貝なのに、あまり知られておらず、食べられていないのはもったいないと感じます。

水産研究所では、令和4年度から、イガイ活用の研究に取り組んでおり、お盆（7～8月）以外の時期でも、美味しい時期があるということが分かってきました。今後、生態調査や官能評価などを通じて、漁獲適期や食味の良い時期を明らかにし、水産的価値を向上させたいと考えています。

近い将来、イガイの需要が拡大し、山形県の新たなブランドとすることが私の野望です。

山形県水産研究所 浅海増殖部 五十嵐 大将

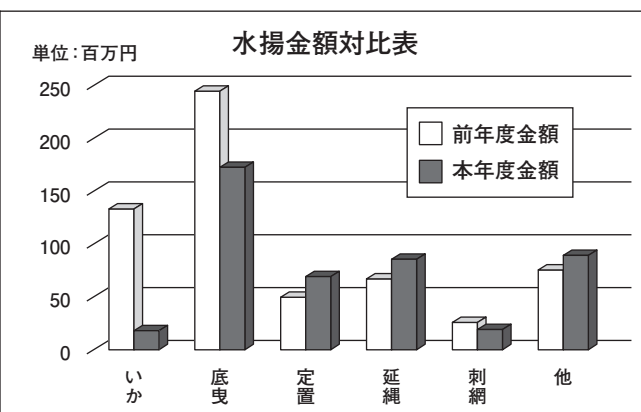
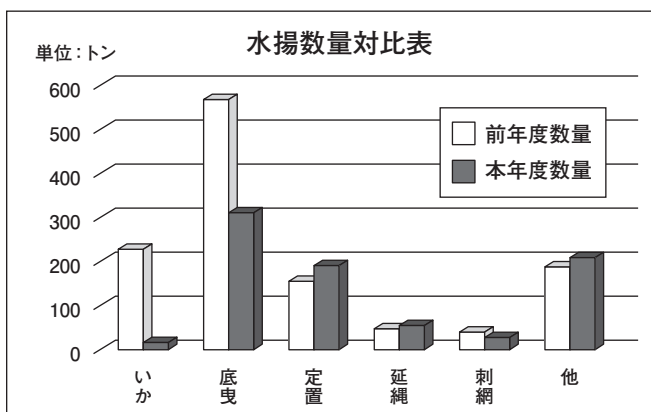


## 前年度水揚金額対比表

令和5年6月30日現在

(単位：kg, 千円)

	6月数量	本年度数量	前年度数量	数量増減	6月金額	本年度金額	前年度金額	金額増減
1 底曳網漁業	146,278	310,547	566,387	▲255,840	75,949	171,655	243,126	▲71,471
2 刺網漁業	6,107	25,855	38,263	▲12,408	4,118	18,519	25,417	▲6,898
3 いか一本釣漁業	2,290	14,690	228,327	▲213,637	2,777	17,578	132,508	▲114,930
4 船凍いか釣漁業	0	0	0	0	0	0	0	0
5 はえなわ漁業	28,758	54,095	45,267	8,828	55,086	85,516	66,849	18,667
6 ごち網漁業	8,042	10,206	11,191	▲985	4,938	5,932	5,400	532
7 定置網漁業	62,960	192,824	154,898	37,926	18,519	69,765	49,372	20,393
8 採貝藻漁業	12,066	27,269	16,739	10,530	9,901	31,340	22,899	8,441
9 その他の漁業	62,581	166,444	154,355	12,089	19,800	44,157	38,782	5,375
10 張網漁業	1,073	4,839	5,554	▲715	651	2,694	2,834	▲140
11 遊漁、直売、県外	0	0	0	0	2,013	5,031	5,377	▲346
合計	330,155	806,769	1,220,981	▲414,212	193,752	452,187	592,564	▲140,377



# 水揚情報

令和5年6月30日現在


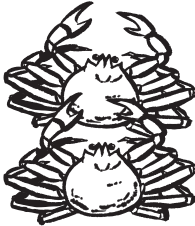
(単位：千円)

区分	支所別	水揚合計	水揚地内訳							
			吹浦	飛島	酒田	加茂	由良	豊浦	温海	念珠関
5月末迄水揚累計		255,417	10,669	4,579	48,456	29,695	45,838	35,722	6,960	73,498
月間水揚	県内船水揚	189,801	11,359	10,276	37,062	13,219	31,384	22,094	10,015	54,392
	県外船水揚	1,936	0	0	1,936	0	0	0	0	0
	合計	<b>191,737</b>	<b>11,359</b>	<b>10,276</b>	<b>38,998</b>	<b>13,219</b>	<b>31,384</b>	<b>22,094</b>	<b>10,015</b>	<b>54,392</b>
前年同月水揚		233,828	8,538	4,863	70,456	10,329	22,774	16,667	4,955	95,246
本年度水揚	県内船水揚	433,004	22,028	14,855	76,951	42,914	76,933	57,816	16,975	124,532
	県外船水揚	14,151	0	0	10,504	0	289	0	0	3,358
	合計	<b>447,155</b>	<b>22,028</b>	<b>14,855</b>	<b>87,455</b>	<b>42,914</b>	<b>77,222</b>	<b>57,816</b>	<b>16,975</b>	<b>127,890</b>
前年度水揚累計		587,192	21,073	13,714	168,807	36,194	75,017	48,032	14,161	210,194
増減		-140,037	955	1,141	-81,352	6,720	2,205	9,784	2,814	-82,304
本年度水揚計画		2,560,000	105,000	79,000	1,066,000	145,000	328,000	200,000	34,000	603,000
達成率		17.4%	20.9%	18.8%	8.2%	29.5%	23.5%	28.9%	49.9%	21.2%

## 今あがっている魚

### - 6月のベストテン -

前年対比 増↗減↘変らず→

水揚金額(千円)				漁獲量(kg)			
1	まぐろ類	55,392 ↗		1	べにずわい	48,540 ↗	
2	ほっこくあかえび	18,813 ↗		2	ぶり・いなだ	44,526 ↗	
3	た い	18,292 ↗		3	ほ っ け	40,506 ↗	
4	するめいか	14,854 ↘		4	た い	29,326 ↗	
5	ぶり・いなだ	10,378 ↗		5	まぐろ類	27,614 ↗	
6	かき貝	8,562 ↗		6	するめいか	17,567 ↗	
7	べにずわい	6,796 ↗		7	ほっこくあかえび	12,049 ↗	
8	ほ っ け	4,667 ↗		8	に ぎ す	11,350 ↗	
9	さ ざ え	3,933 ↗		9	た ら	9,375 ↗	
10	ひ ら め	3,605 ↗		10	か き 貝	8,721 ↗	

月間MVP

月間MVP

◇卒業・進学・就職・異動と忙しい春から早くも3カ月が経ち、うっとうしい梅雨を経て今月号が発行される7月末には梅雨が明け、今年も暑い夏を迎えようとしています。

◇私が入組した平成17年当時は、底曳網も定置もはえ縄や刺し網も、入組3日目にはいか釣りの荷揚げも始まり、とにかく「海にはこんなにも魚がいるのか」と思うほど魚があつたイメージがあります。市場の中では右も左も分からない私を指導してくれた先輩職員に必死に付いて歩いて「今日は漁があるなあ」とか「今日は〇〇が大漁でよかったなあ」と言った声掛けをいたたくも、確かに魚はいっぱい揚がっているけど何が何だか分からず働いていたころを懐かしく思っています。

◇4月からの漁模様を振り返ると、何と云っても「漁がない!」という印象を受けるのは私だけではないと思います。組合員さんの漁獲物を預かって共販する販売事業を始めとする経済事業が漁業協同組合の基幹事業であることに変わりはありませんが、これだけ漁獲量が減ってしまったのは、販売事業に付随する購買事業や製氷冷凍事業、前浜で水揚げする漁獲物を利用した加工事業にも深刻な影響を与えています。

◇先の記事でご紹介した通り、組合員の皆さんをはじめとする漁業関係者に皆さんに安心して利用していただき信頼される漁業協同組合事業を継続するために「水揚げだけに頼らない」組合運営を目指しています。今年は4月から販売手数料を1%上げさせていたいただいており、先の1月には水供給単価の見直しを実施しています。「水揚げだけに頼らない」事業運営として、例えば員外への燃油供給やライン・共済推進、庄内海丸での産直事業の拡大など市場利用者だけに負担をお願いするのではない仕組みを検討し、体制構築に向けて役員一丸となり努力してまいります。

◇今年度の通常総代会は58回を数えました。当組合は、昭和40年に全国初となる一県一漁協として合併し、その節目となる60周年は目前と近づいています。その節目を笑顔で迎えることができるよう、庄内浜の恵みを永続的に利用することができるよう祈ってやみません。今後とも、組合員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

信用共済課長 佐藤 健

編集 後記

浜の笑顔を共済とともに

# 万里の波濤を超えてゆく

## 船速いかつり船出航式



去る6月11日(日)、「船速いかつり船出航式」が酒田港袖岡ふ頭で行われ、酒田船団7隻のうち4隻が出航しました。

航海の安全と大漁を祈禱する式典では、船団長である第86若潮丸の本間漁労長が、「これまでの漁師人生において、これだけ多くの国際問題を抱え、いかを取ることには専念できない状態が続くことはなかった。現場で最善を尽くし、他船団から負けない成績を残すのが山形船団の真骨頂。本日、皆さんの思いを心に刻み出航する。」と挨拶し、乗組員の家族に安全と大漁を誓いました。

出航の予定時刻が訪れると、酒田市を拠点に活躍する「太鼓道場風の会」の迫力ある太鼓演奏とともに、まずは第86若潮丸が先頭を切り、続いて第23輪島丸、第31永宝丸、第68栄成丸と次々に出港していきましました。見送りに集まった家族や水産関係者はみな口々に「頑張れ!」「気を付けて!」などエンジン音に負けない大きな声で励ましながら、色鮮やかな紙テープとともに手を振り送り出しました。この先、酒田港を出航した船団はスルメイカの群れを追いながら北海道沖やロシア海域まで北上し、外国漁船がひしめき合う大変危険な漁場において、過酷な操業を半年ほどかけて行います。船団の皆様の航海安全と大漁を心からお祈りしています。

# 加茂のカモンマーレにカモ〜ン!



鉄骨造3階建ての建物です



6月24日(土)、鶴岡市加茂地区にカモンマーレがオープンしました。

カモンマーレは、鼠ヶ関のバリアフリービーチなど環境改善や環境教育に取り組む「NPO法人エコ・リンクやまがた」が、日本財団の補助事業「渚の交番プロジェクト」を活用して整備したもので、全国では13番目、東北の日本海側では初の「渚の交番」です。

「渚の交番」と言っても警察施設ではなく、「海に関わる人々の交流の場所づくり」として企画されたもので、カモンマーレでは、庄内浜の魅力を多くの人々から楽しんでもらえるよう、サップやカヌー、磯遊び等の海洋体験や、海の生き物や環境汚染などを学ぶ海洋教育、低利用魚を含む地魚を使ったイタリア料理の販売などに取り組みます。

また、鶴岡市としてもカモンマーレの完成を加茂地区の活性化を図る絶好の機会と捉え、自治振興会、加茂水族館、DEGAM、教育委員会、市とカモンマーレで連携協定を結び、交流人口増大による地域産業の振興や、未来を担う子供たちに地元の海や漁業を知ってもらう教育活動などに取り組んで参ります。

そして、カモンマーレでは海の魅力を伝える仲間を随時募集中です。興味を持った漁業者の皆様、ぜひ一度訪れていただくと幸いです。

鶴岡市農林水産部農山漁村振興課 主査 五十嵐 崇



カモンマーレの詳細はこちらでチェック

